

## UDCBK 令和2(2020)年度実施予定事業

## 1. 事業プロジェクト

## (1) 都市デザイン連携プロジェクト

## ① 南草津駅周辺の公園を中心としたまちづくり

南草津駅周辺の公園を中心としたまちづくりを進めるために、南草津駅西口東山道記念公園の利活用について、昨年度から取組んでいる、まちライブラリーを活用した市民のコミュニティーの形成やまちの賑わい創出に加え、健康寿命延伸に繋がる少子高齢化社会に対応できる能力を考える。また、南草津プリムタウンの公園づくりにおいて、同事業地区の5つの公園について、令和元年度の取組をふまえて、1号公園に引き続き、これから居住する住民の要望や意見を踏まえ、かつ十禅寺川沿いの景観にも配慮した新しい公園づくりを、市民、土地区画整理組合、草津市、大学などと連携して進める。また、本年度実施した学生が授業で製作した都市建築デザインの作品展示を継続して行い、多様な視点からのまちづくりを考える。

## ② 地域再生計画支援

草津市では超高齢社会を見据え「立地適正化計画」「草津市版地域再生計画」「公共交通網整備計画」が策定され、新たなまちづくりの模索が始まっている。UDCBKは対象地域の住民主体のまちづくりの取り組みを研究会への参加や専門家を招いたセミナーなどで支援する。

## (2) 都市と交通プロジェクト

草津市は都心である草津駅と副都心である南草津駅の2駅を核としたまちとして発展してきており、草津駅周辺のまちづくりとして中心市街地活性化事業、湖岸部などの市街化調整区域の持続可能なまちづくりとして草津市版地域再生計画にもとづく事業を進めている。

1994年のJR南草津駅開業以降、周辺地域は急速に開発が進み高密度な市街地となった。南草津駅はその利便性から大手企業従業員や立命館大学学生の主たる利用駅となり、現在、滋賀県トップの乗降客数である。南草津の駅勢圏はベッドタウンとして急速に発展し、それに伴って都市空間に関わる課題は交通インフラをはじめ少なくない。「コンパクトシティプラスネットワーク」「健幸都市」をコンセプトとした草津市の今後の発展にとって南草津駅周辺の将来ビジョンを大きく描くことは重要な課題である。

昨年度、立命館大学・滋賀県・草津市都市計画部・UDCBKで都市と交通シナリオスタディ研究会を開催し、2020～2040年の南草津駅周辺の将来像を複数のシナリオとして描く中で交通インフラを含む望ましい都市空間のあり方について準備的な議論を進めた。

今年度は、都市と交通シナリオスタディプロジェクトのバージョンアップをはかり、専門家のレクチャー、産学公民連携ワークショップなどを通じて、長期的な視点で未来の都市デザインを構想する。

## (3) 大学生が住むまちプロジェクト

草津市は約8,000名の大学生が居住する都市でもあり、安全安心・快適な草津市のまちづくりにとって学生は重要な担い手でもある。オフキャンパスである地域で大学生が市民として生活し社会人として成長するような生き生きとしたまちを作ることは地域の魅力を高めることに繋がる。これを促進することは産学公民連携のプラットフォームであるUDCBKに

とって重要な課題であり、今年度は課題の場の提供から活用へ繋げる。

## 2. 学習事業

### (1) アーバンデザインスクール（前期後期各5回）

アーバンデザインの考え方や事例を専門家から体系的に学び今後のまちづくりに活かす。

### (2) アーバンデザインセミナー（15回程度）

事業プロジェクトと連動したテーマやまちづくりに有益な話題をとりあげ、多様な層の問題関心にこたえる内容をめざす。

## 3. 社会実験準備事業等

本事業は草津市が包括協定を締結する7大学を対象にUDCBKの提示するテーマについて社会実験の提案を準備事業として委託する。

本年度は従来の枠組みを一部変更し、UDCBKの事業プロジェクトにもとづいて行うA型、「健幸都市」に関わってUDCBKが募集するテーマにもとづいて行うB型とする（総額100万円）。あわせて募集開始時期の早期化など運用上の改善を図る。

\*募集要項案配付：3月3日（火）

\*募集要項配付・申請受付：4月3日（金）

\*募集締め切り：4月24日（金）

\*決定通知：5月29日（金）

\*委託期間：決定通知から2月末

## 4. オープンスペース

現在地に移転して3年余りが経過し徐々にUDCBKの認知度が高まるにつれてオープンスペースは多様な層の利用が促進されてきた。南草津駅周辺で働き学び生活する多様な層が利用できるパブリックスペースが不足している中でUDCBKはそのモデルとなるような場を事業の一環として提供している。多様な市民が「産学公民が連携して未来の都市のデザインのために人と情報があつまる」UDCBKのオープンスペースを“まちの広場”として利用することでそこが多様な市民にとっての“サードプレイス”となるよう引き続き運営する。また、本事業での取組を従来の利用人数だけではなく、個人やグループの施設利用がまちづくりに寄与しているケースなどを把握できるよう工夫し、可視化する。

## 5. 情報発信

UDCBKの活動を発信し市民的理解を得ることは重要であり全国のUDCネットワークにおいても情報発信は重視されている。UDCBKは草津未来研究所のUDCBK事業という位置づけから草津市のホームページに含まれており、独自アカウントは持たずデザインや運営等については一定の制約を受けている。

現在の報告中心のコンテンツから、UDCBKの基本情報およびセミナー等の企画など発信を重視した内容の改善に務めまる。

なお、公式アカウントを持つFacebookの更新は週に2回を目標に、主にUDCBKでの活動やそこから生まれた取り組み等を中心に掲載する。さらに各種企画について公共施設・学

校・団体などに定期的に広報媒体を提供し配付に協力していただいたり、南草津駅デジタルサイネージの活用も行うなどの情報発信に努める。

また、新たな経路で情報が伝達するよう、企業等に協力を呼び掛ける。

## 6. 法人化検討

昨年度、事業を進めながら、法人化ワーキングでいただいた意見をもとに、メリット・デメリットに当てはめ整理した。本年度は具体的に課題の整理を行い、検討を継続する。

## 7. その他

(1) 産学公民連携による英知を組織化するため、関係者の交流・勉強会を適時開催する。

昨年度繋がった各団体等との連携を深め、UDCBK 各事業に結びつける取組を強化する。

(2) 全国のUDCの先進的な取組に学び、UDCネットワークとの交流を深める。